

ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行のムハマド・ユヌス総裁の記者会見は、ちよつと変わった雰囲気だった。先日、日本を訪れた時のことだ。

「農村振興のために長年尽くしたユヌス氏はバングラデシュの誇りだ」「貧困をなくすることが平和実現のために必要だ」

駆けつけた内外の支持者たちがマイクを握り、次々に賛辞を贈る。会見というよりは支援集会のような感じだ。

ユヌス氏は「マイクロクレジット（少額融資）を利用する700万人の貧しい女性たちがそが受賞者だ」と声を弾ませた。

農村の女性たちに無担保で少しのお金を貸すユヌス氏の活動は、それほど国際的に知られていたということだろう。

では日本政府もこれに学び、同じような支援をしているのだろうか。数年前、東南アジアの援助現場を訪ねた時に見たのは、お金のかわりに豚や米を農家に貸し付ける「豚銀行」「米銀行」の取り組みだった。

援助を担当する国際協力機構（JICA）には現金の貸し付けが認められていないと知ったのはその時だ。JICAは技術協力、国際協力銀行（JBIC）が大型融資という「縄張り」があり、少額融資がやりにくい制度になっていた。

そのJICAが08年、JBICの円借款部門と統合し、ようやく少額融資を堂々とする条件が整うという。

「何を今さら」とは言まい。こうなったら、グラミン銀行を追い越す意気を取り組んでほしい。